

【親方マッチング】で竹林整備を体験

令和8年5月23日（土）長崎県森林山村対策協議会主催による“親方マッチング”が開催されました。森林整備に関心を持つ初心者と普段から山の整備活動を行っているボランティア団体を「親方」として結び付け、継続的な活動参加へ繋げる取組で初心者と親方役のボランティアがペアを組みマンツーマン形式で竹林整備を実施。親方から竹の伐り方や倒す方向など基礎的な知識や注意点について丁寧な指導が行われました。参加者からは「機械を入れて一気に整備



できると思っていたが重機が入れない場所が多くて驚いた」「山の整備の大変さを身をもって体験した」といった声が聞かれました。「親方」という身近な存在を通じて人と山、人と人を繋ぐ今回の取組は新たな森林ボランティアの担い手づくりとして期待されます。

樹木医と歩く巨樹さるく～長崎市街地編～

令和8年5月17日（日）、長崎市内で「樹木医と歩く巨樹さるく～長崎市街地編～」が開催されました。主催は長崎県樹木医会で、約50人が参加し、樹木医の解説を聞きながら市街地の7カ所を約3時間で巡りました。スタート地点は諏訪神社で、普段は立ち入ることができない本殿裏手の神域「鎮守の森」を見学しました。幹回り9メートル近いクスノキが10本以上そびえ、推定樹齢は600年ほどとのこと。原爆の爆風からも本殿を守った木々ではないかという解説もありました。その後は市街地を歩きながら、光永寺ではイチヨウの学名にまつわる話、興福寺ではハート形のソテツの実探しなど、各スポットで樹木医による解説が行われました。道中の民家の軒先の木や思案橋の見返り柳など、コース上の樹木についてもその場で説明が加えられました。ゴールの大徳寺では、幹回り13.8メートルで県内最大、長崎県の天然記念物に指定されている大クスを見学しました。樹齢はおよそ800年とされています。



主催の県樹木医会では、紅葉の時期にあわせて秋に第2回の開催を予定されているとのこと。長崎の街にたたずむ巨樹に、皆さんも触れてみてはいかがでしょうか。